

Title	中田美喜教授略歴・業績
Sub Title	Veröffentlichungen
Author	西村, 正身(Nishimura, Masami)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1992
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.60, (1992. 3) ,p.IX- XXIV
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	中田美喜教授追悼論文集
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00600001--004

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中田美喜教授
略歴・業績

略 歴

- 昭和 六年一〇月一八日 広島県尾道市にて出生
- 昭和 三年 三月 広島県立尾道中学校四年修了
- 昭和 三年 四月 第六高等学校文科乙類入学
- 昭和 四年 三月 同一年修了（学制改革）
- 昭和 四年 九月 岡山大学文学部入学
- 昭和 六年 四月 埼玉大学文学部独語独文学科に転入学
- 昭和 二年 三月 同卒業
- 昭和 二年 五月 東京大学大学院人文科学研究科独語独文学
専攻 修士課程入学
- 昭和 三〇年 三月 同修了
- 昭和 三〇年 四月 同博士課程入学
- 昭和 三二年 三月 三日 雅子夫人と結婚
- 昭和 三三年 三月 東京大学大学院人文科学研究科独語独文学
専攻 博士課程満期退学

昭和三十三年 四月 慶応義塾大学経済学部専任講師

昭和三十八年 四月 慶応義塾大学文学部助教授

昭和四十六年 五月 日本独文学会理事

昭和四十九年 四月 慶応義塾大学文学部教授

昭和五〇年一〇月～昭和五四年九月 慶応義塾大学文学部日吉主任

昭和六一年～平成二年七月 ドイツ語ドイツ文学国際学会事務局長

平成 二年 七月一五日 都立大塚病院にて逝去

死去の前年まで研究・調査のため十数度にわたり渡独

東京大学・中央大学をはじめ数校において非常勤講師

主要業績

論文

トーマス・マンへの告別、「ドイツ文学」第一五号（五〇—五三頁）、日本独文学会、昭和三〇（一九五五）・一〇・二九

『ジンプリチシムス』における物語りの態度——題詩の解釈をめぐって——、「日吉論文集」（三田学会雑誌・三田商学研究、日吉特別号）3（慶応義塾大学創立百年記念号）所収（一三〇—一四八頁）、昭和三三（一九五八）・一二・三〇—三三
Absurda Comica. Oder Herr Peter Squenz/Schimpf. Spiel von Andreas Gryphius. 「ドイツ文学」第三六号（四〇—四九頁）、日本独文学会、一九六六・三・一六

作家としてのトーマス・マンの生涯、一九六八年頃？（未発表原稿。翻訳『すげかえられた首』の解説として執筆か？）

文学史の問題性——一七世紀研究の立場から、「ドイツ文学」第四九号（一一—一九頁）、日本独文学会、一九七二・一〇・一〇

ペルリオン物語——文学首都の成立まで——、「芸文研究」第四〇号（一四四—一五六頁）、一九八〇・九・三〇—三二
〈ウアロマーン〉をめぐる覚え書き、「芸文研究」第四三号所収（二五一—二五九頁）、一九八二・一二・一〇

ゲテ時代のドイツ人たち——一七九八年の文学地図序説（付独文レジュメ）、「ゲテ年鑑」第二四卷（通刊第三五卷）所収（一一一六頁）、日本ゲテ協会、昭和五七（一九八二）・一〇・一

バロック小説大観——《Mythosopia Romanica》再見——、「ドイツ文学」第七八号（八二—九一頁）、日本独文学会、一九八七・三・一

Grimmelshausen の「謎」、慶応義塾大学日吉紀要「ドイツ語学・文学」第四号（一五六—一五九頁）、昭和六二（一九八七）・三・三一

知られざるグリムメルスハウゼン、「芸文研究」第五二号（一八一—二六頁）、昭和六三（一九八八）・一・二〇

老フォンターネ讃——『ボッゲンプーラ家の人々』——、「芸文研究」第五四号（四一九—四二六頁）、平成一（一九八九）・三・二〇

著書その他

大独和辞典、相良守峯編、博友社、昭和三三（一九五八）・六・一〇、編集協力

玉川百科大辞典一六（西洋文芸）、第四章二節（古代より中世まで）および三節（宗教改革とバロック時代）を執筆（一六〇—一八二頁）、玉川大学出版部編（小津次郎・土居寛之・富士川英郎・山室静編集）、誠文堂新光社、昭和三五（一九六〇）・七・一五

新潮世界文学小辞典、新潮社、昭和四一（一九六六）・五・二〇、執筆（アンデルシュ、グリムメルスハウゼン等）
ドイツ文学史、佐藤晃一編、明治書院、昭和四七（一九七二）・四・一五（「中世期——ドイツ文学の起り」と「十

六、十七世紀——ルネサンスとバロック」へ七一五八頁〕を執筆)

万有百科大辞典二「文学」、小学館、昭和四八(一九七三)・八・一〇、本文執筆(相良守峯、グリーンメルスハウゼン等)

増補改訂・新潮世界文学辞典、新潮社、一九九〇・四・二〇、執筆協力および執筆(アンデルシュ、グリーンメルスハウゼン等)

翻訳

フランツォース、青春(Junge Liebe)、『サマセット・モーム編「世界文学一〇〇選」二所収(三一三四頁)、河出書房、昭和三六(一九六一)・五・一〇

シュニッツラー、男爵の運命(Das Schicksal des Freiherrn von Leisenbohg)、『同右所収(二四九—一六八頁)

アルノルト・ツヴァイク、実いまだ熟れず(Ein Bieam)、『サマセット・モーム編「世界文学一〇〇選」四所収(一三六

—一四七頁)、河出書房、昭和三六(一九六一)・八・一五

グレーザー、さくらんぼ祭(Das Kirschenfest)、『サマセット・モーム編「世界文学一〇〇選」五所収(四〇九—四二〇頁)、河出書房、昭和三六(一九六一)・九・一五

St. ヴァイク、スタンダール、「ツヴァイク全集」一〇「三人の自伝作家」所収、みず書房、昭和三七(一九六二)・一・三〇〔解説 スタンダール〕四〇六—四〇八頁も執筆)

H・ベル、九時半の玉突き、佐藤晃一訳、白水社、「新しい世界の文学」二三、一九六五・三・二五〔解説〕三二〇頁

によると、これは一人の共訳であり、「全体をまとめてくれたのは中田美喜君である」とある)

アンデルシュ、自由のさくらんぼ、「群像」九月号(通巻第一七巻第九号)所収(九四―一四七頁)、講談社、昭和三七

(一九六二)・九・一

エフゲニー・エフトシェンコ、石と少女、「自由」四月号(通巻第五巻第四号)所収(一二二―一三四頁)、自由社、昭

和三八(一九六三)・四・一

クライスト、拾い子、「世界短篇文学全集」三(ドイツ文学／一九世紀編)所収(四五―五九頁)、集英社、昭和三八

(一九六三)・九・二〇

グリーンメルスハウゼン、放浪の女べてん師クラシーエ、現代思潮社、古典文庫、一九六七・一一・三〇(「解説」も執筆)

J.P. マン、すげかえられた首、「世界文学全集」二八所収(三七七―四五五頁)、講談社、昭和四三(一九六八)・四・

一八

エーリヒ・ヘラー、廃嫡者の精神(全八章のうち「Iゲーターと学問的真理の理念」「IIゲーターと悲劇の回避」、一―六六

頁)、紀伊国屋書店、一九六九・一〇・一〇(共訳者：青木順三、杉浦博)

クライスト、拾い子、川村二郎編・現代の世界文学「ドイツ短篇二四」所収(二六―三〇頁)、集英社、一九七一・一〇

・一〇

クライスト、こわれがめ／アンフィトリオン、「クライスト名作集」所収(七一―一三六頁)、白水社、一九七二・七・二

五(「解説」三九七―四〇五頁も執筆。共訳者：岩淵達治、羽鳥重雄)

クライスト、O 侯爵夫人／拾い子／ロカルノの乞食女／チリーの地震（『拾い子』以下三編は柏原兵三氏との共訳）、「新集世界の文学」五「シラー／クライスト」所収、中央公論社、昭和四七（一九七二）・八・二〇

F・ゼングレ、ヴィーラントとゲーテ、相良守峯監修／H・O・ブルガー編著「ドイツ古典主義研究」所収（三六七―三九五頁）、エンヨー、一九七九・一二・二五

ゲーテ、ゲッツ・フォン、ベルリヒンゲン、「ゲーテ全集」四所収（七五―一七五頁）、潮出版、一九七九・七・二五（「解説 ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン」四三二―四三六頁も執筆）

H・プランング編著、ドイツロマン主義研究、エンヨー、一九八七・八・二五

監修および翻訳..

(a) ヘルムート・プランング、序言（二―一九頁）

(b) ヤーコプ・オーバーマンズ、ロマン主義をめぐる闘い（二二―三三頁）

クライスト、拾い子、集英社ギャラリー「世界の文学」一〇「ドイツ」所収（二〇八九―二一〇四頁）、集英社、一九九一・五・二五

文献解題

近世ドイツ文学（八名による合作）、「ドイツ文学」第七八号（九二―一〇〇頁）、日本独文学会、一九八七・三・一

口頭発表／講演

最近のグリーンメルスハウゼン研究、日本独文学会・秋期研究発表会（京都大学）、昭和三四（一九五九）・一一

- Günter Grass: Hundejahre について、現代ドイツ小説研究会（学士会館）、昭和三九（一九六四）・一一
- Andreas Gryphius の喜劇について、ドイツ・バロック研究会（学士会館）、昭和四〇（一九六五）・二
- 喜劇『Horiblichrifax』と『Herr Peter Squenz』、日本独文学会・バロック文学研究分科会（中央大学）、昭和四〇（一九六五）・五
- ドイツ・バロック小説——Hunold について——、ドイツ・バロック研究会（学士会館）、昭和四〇（一九六五）・六
- ゲーテの女性観、日本ゲーテ協会富山支部講演会、昭和四〇（一九六五）・七
- グリンメルスハウゼンとバロック小説、日本独文学会・春季研究発表会バロック分科会、昭和四一（一九六六）・五
- 詩と真実、日本ゲーテ協会富山支部講演会、昭和四一（一九六六）・七
- ゲーテとその時代、京都コンピュータ学院・第一回文化講演会、昭和五八（一九八三）・四・一八

書評

- Albrecht Schöne: Emblematik und Drama im Zeitalter des Barock. 『芸文研究』第二〇号（二五九—二五六—三一—三四頁）、昭和四〇（一九六五）・一一・二五
- Walter Hinck: Das deutsche Lustspiel des 17. und 18. Jahrhunderts und die italienische Komödie. 『芸文研究』第二一〇号（七五—七二—五八—六一—頁）、昭和四一（一九六六）・四・一
- 相良先生の『茫々わが歲月』、『Brunnen』（Nr. 205）一一—一三頁、郁文堂、一九七八・七

編集

文学と人間の言語——日本におけるG・スタイナー——、白井浩司・若林真・安東伸介・中田美喜・池田弥三郎編（編集代表池田）、慶応義塾三田文学ライブラリー、昭和四九（一九七四）・一二・一〇

シンポジウム／座談会

シンポジウム「文学芸術に現われたる女性像」、檜谷昭彦・中田美喜・八代修次（司会）池田弥三郎）、昭和三九（一九六四）・六・二〇（三田西校舎 五一七）

シンポジウム「文学・芸術におけるデカダンス」、高島正明・上村達雄・中田美喜・村松暎・渋井清、昭和四三（一九六八）・六・二九（「芸文研究」第二六号〈昭和四三・一一・二〇〉一〇五—一〇七頁に「ドイツ文学の場合」として要旨）

座談会…現在の課題を考える——地方出張者報告会から——、出席者：青沼吉松・安川正彬・大山正武・宇治順一郎・

中田美喜、「三色旗」(No. 251) 一—七頁、昭和四四（一九六九）・二・一

シンポジウム「バロックの概念について」、昭和四五（一九七〇）・一〇（「ドイツ文学研究会」において）

ドイツ・ロマン派の受容史（報告要旨）、「ドイツ文学研究会シンポジウム記録」、昭和四八（一九七三）・六

「若きドイツ」に関する諸問題（報告要旨）、「ドイツ文学研究会シンポジウム記録」、昭和五〇（一九七五）・八

座談会…酒・味・歌、出席者…森武之助・池田弥三郎・若林真・中田美喜、「三色旗」(No. 331) 八—二四頁、昭和五〇（一九七五）・一〇・一

座談会…ヨーロッパの女性、出席者…池上忠弘・佐野努・野地洋行・中田美喜、「三色旗」(No. 345) 八—一七頁、昭和

五一（一九七六）・一二・一

シンポジウム「現代批評の当面するもの」、中田美喜・由良君美・高山鉄男・岩松研吉郎（司会：安東伸介）、昭和五一（一九七六）・一二・三（三田南校舎）

シンポジウム「文学における東京」（昭和五四・一二・七、慶応義塾大学三田校舎 五一九番教室）、池田弥三郎・若林真・中田美喜・安東伸介、「芸文研究」第四〇号（三一四二頁）、芸文学会、一九八〇・九・三〇

シンポジウム「ユートピア」、上村達雄・中田美喜・藤田祐賢・松原秀一・鷺見洋一・岩松研吉郎、昭和五五（一九八〇）・一二・五（三田西校舎）

エッセイ

トーマス・マン「トリーニオ・クレイガー」、河出書房新社世界文学全集三二「トーマス・マン」の月報所載（二―三頁）、昭和三八（一九六三）・三・一〇

悲劇的と教養的——ドイツ文学の女性像——、「三田評論」第六三一号（二八―三三頁）、慶応義塾、昭和三九（一九六四）・一〇・一

女性像からみたドイツ文学史、「ゲルマニスト」、大学書林、昭和四〇（一九六五）・五―昭和四一（一九六六）・四

（その１） クリームヒルト、四二―四五頁

（その２） コンドヴィラムール、一〇六―一〇九頁

（その３） 愚かの女神、一六二―一六五頁

(その4) ジョージアのカタリーナ、二一八―二二二頁

(その5) ミンナ・フォン・バルンヘルム、二七〇―二七三頁

(その6) ムザリーオン、三二八―三三一頁

(その7) 永遠の女性、三八二―三八五頁

(その8) 間奏曲、四三六―四三九頁(シラー「婦人の品位」の訳)

(その9) オルレアンの処女、四九四―四九七頁

(その10) ペンテジレアー、五四八―五五一頁

(付) (ドイツ語の原名・原題の類の一覧)、六五八―六六一頁

トーマス・マン父子とユダヤ人問題、「本の手帖」第六九号(二二―三三頁)、昭森社、昭和四二(一九六七)・一一・

一

バーバリズム或いは床屋の論理学、「三色旗」(No. 240) 八頁、昭和四三(一九六八)・三・一

遥かなるところより、「三色旗」第二四八号(裏表紙の内側)、昭和四三(一九六八)・一一・一

「花も見ず」、「三色旗」第二五四号(裏表紙の内側)、昭和四四(一九六九)・五・一

「武士は食わねど……」、「三田評論」第六九五号(五二―五三頁、三田フォーラム)、慶応義塾、昭和四五(一九七〇)

・七・一

三島由紀夫の死に、一九七〇・一一・三〇(未発表原稿)

開化期の文学思想——ドイツ十七世紀への試論、「三色旗」(No. 274) 一―五頁、昭和四六(一九七二)・五・一

飾り気のない温かい人柄——沢田允茂文学部長——、「三田評論」第七一〇号（五八—五九頁、新学部長の横顔）、慶応義塾、昭和四六（一九七二）・一二・一

「文学と人間の言語」——日本におけるG・スタイナー——、「塾」第六九号（二四頁）、昭和四九（一九七四）・二・一
ドイツの国文学、「三田評論」第七四〇号（一九頁、研究余滴）、慶応義塾、昭和四九（一九七四）・八・一
宗教改革の前夜祭劇、「三色旗」第三二〇号（二二頁）、昭和四九（一九七四）・一一・一

大学生活と友情、「塾」通巻第八八号（二二—五頁）、昭和五三（一九七八）・四・一

Heideまで、「カスターニエン」N. 36（一八—二二頁）、南江堂、昭和五五（一九八〇）・五・一

Heideにて、「カスターニエン」N. 37（五一—七頁）、南江堂、昭和五六（一九八一）・五・一

私と……無芸、「慶応通信」第三九九号（三頁）、昭和五六（一九八一）・六・一

岩崎英二郎氏ゲートル金牌受賞のこと、「ひろの」二二二号（三四—三五頁）、ドイツ語学文学振興会、一九八一・一〇

『ゲートル著作集』初版、「塾」第二一一号（裏表紙の内側）、昭和五七（一九八二）・二・一

ゲートル拾遺(1) ヴェルテル／ナポレオン／気球、「塾」第一一二号（二六—二七頁）、昭和五七（一九八二）・四・一

ゲートル拾遺(2) 長寿の天才と短命の天才、「塾」第二一三号（二六—二七頁）、昭和五七（一九八二）・六・一

ゲートル拾遺(3) 才女と虜囚——続ゲオルク・フォルスター——、「塾」第一一四号（二六—二七頁）、昭和五七（一九八二）・八・一

ゲートル拾遺(4) 革命への旅人——ゲオルク・フォルスターⅢ——、「塾」第一一五号（二六—二七頁）、昭和五七（一九八二）・一〇・一

ゲーテ拾遺(5) シベリア旅行記——アウグスト・フォン・コツェブー——、「塾」第一一六号(二六—二七頁)、昭和五七(一九八二)・一一・一

ゲーテ拾遺(6) ロシアのスパイとして——アウグスト・フォン・コツェブー——、「塾」第一一七号(二六—二七頁)、昭和五八(一九八三)・二・一

ゲーテの『色彩論』初版、「塾」第一二二号(裏表紙の内側)、昭和五八(一九八三)・一〇・一

いま、世界の街で…リューベックの静かな日々、「三色旗」(No. 49) 三〇—三三頁、昭和六〇(一九八五)・八・一
ドイツのバロック時代、サントトリー音楽文化展⁸⁵「バッハ生誕三〇〇年」所収(一三〇—一三三頁)、一九八五
相良先生文化勲章のこと、「ラテルネ」五五号(三一—五頁)、同学社、昭和六一(一九八六)・一・二五

IVG 東京会議・一九九〇、「ドイツ文学」第七六号(一五五—一五八頁)、日本独文学会、一九八六・三・三一
おとなへの出発、「三色旗」(No. 459) 一頁、昭和六一(一九八六)・六・一

IVG 会長《岩崎英二郎君》・国際会議会長の名誉と重責、「三田評論」第八六八号(六四—六五頁)、塾員 WHO'S WHO? 昭和六一(一九八六)・三・一

IVG 東京大会について、「三田評論」第九一〇号(七六—七七頁)、慶応義塾、平成二(一九九〇)・一・一
詩・無題、「ラテルネ」六五号(二〇—二二頁、若き日の詩の一篇)、同学社、平成三(一九九一)・二・一〇

紹介文

Japan in Europa (D・カピッツァ、ヨーロッパ人の眼に映じた日本)、(岩崎英二郎・浜川祥枝両氏と共同執筆)

その他、教科書多数、詩、未完の小説など。

(作成…西村正身。皆様の御協力を感謝いたします)